

2023 年度事業報告

1. 第 94 回日本農学大会の開催

4 月 5 日に東京大学弥生講堂において 2023 年度 7 名の日本農学賞、読売農学賞受賞者の受賞式・受賞講演を会場参加、オンライン配信で開催した。会場参加 100 名（関係者含む）、オンライン登録者：234 名、視聴者：187 名、常に 100～150 名以上の方が視聴していた。

2. 2023 年度日本農学会シンポジウムの開催

2023 年 10 月 11 日に統一テーマ「激動する社会と農学」を会場参加、オンライン配信で開催した。8 件の講演を行った。会場参加 66 名（関係者含む）、参加登録数が 495 名、視聴者数が 239 名で多くの方々の参加があった。

3. 2022 年度日本農学会シンポジウム講演要旨の「農業および園芸」（養賢堂）への掲載

8 名の講演者の講演要旨を 98 巻 1 号の特集記事として掲載した。

4. その他

- ・日本学術会議は 2022 年 12 月 26 日に「日本学術会議の在り方についての方針についての再考を求めます」の声明を発出し、それを受け、2 月 6 日に日本農学会、（公財）農学会、日本農学アカデミーの各団体の理事会の支持声明を発出した。
- ・（公財）農学会－2023 年度第 22 回日本農学進歩賞を共催。
- ・アグリビジネス創出フェア、アグロ・イノベーションを後援。
- ・公正研究推進協会（APRIN） 2023 年度全国公正研究推進会議の後援

2023 年度の会議内容は以下の通り

会議名	開催日	主な議事
総会	第 6 回 2 月 11 日 オンライン会議 10：00～	<p>審議事項：</p> <p>第 1 号議案 2022 年度事業報告 出席会員の異議なく承認された。</p> <p>第 2 号議案 2022 年度収支決算報告および監査報告 収支決算報告について報告があり、次いで、監事から配布資料に基づき、2022 年度の監査報告が行われ、出席会員の異議なく承認された。</p> <p>第 3 号議案 日本農学会定款・定款施行規則変更の件 日本農学会定款（役員の任期）第 24 条に監事の任期が定められておらず、会長、副会長同様 2 期以内とする案の説明がなされ出席会員の異議なく承認された。また、定款施行規則（第 4 章役員の選任）第 11 条 2 に監事も「あらかじめ候補者本人から承諾を得ることとする。」ことが出席会員の異議なく承認された。</p> <p>第 4 号議案 日本農学賞受賞者決定と読売農学賞受賞候補者として推薦の報告 選考会の選考結果に基づき、日本農学賞受賞者および読売農学賞受賞者 7 名が決定された。 読売新聞社の編集局科学部長立ち会いのもと、その場で読売農学賞受賞者も決定された。</p> <p>報告事項：</p> <p>1.2023 年度事業計画 2023 年度の事業計画について報告があった。</p>

		<p>2.2023 年度収支予算 2022 年度の収支計画について報告があった。</p> <p>3. 2023 年度の日本農学大会について 2023 年度の日本農学大会は 4 月 5 日（水）に山上会館（予定）にて開催されることが報告された。</p> <p>4.2023 年度役員、常任委員および会員（代表者）、運営委員について 2023 年度の役員、常任委員および会員（代表者）、運営委員について報告があった。</p> <p>5 その他</p> <p>1) 読売新聞社との読売農学賞に関する合意事項の確認 大杉会長より、読売農学賞に関する合意事項について、昨年の総会でも報告されたが、副賞は今限りだが読売農学賞は継続することが報告された。</p> <p>2)学術振興協会-卓越研究成果公開事業の終了について 卓越研究データベース「発見と発明のデジタル博物館」の公開が令和 5 年 3 月をもって終了することが報告された。現在公開されている日本農学賞受賞論文については、今後日本農学会のホームページで公開を検討していくことが報告された。</p> <p>3) 日本学術会議「未来の学術振興構想」等についての報告 大杉会長より「未来の学術振興構想」については、2 部の農学分野が中心となって提出することになり、日本農学会として協力体制をとること確認された。 日本学術会議は 2022 年 12 月 26 日に「日本学術会議の在り方についての方針についての再考を求めます」の声明を发出、それを受け、2 月 6 日に日本農学会、(公財) 農学会、日本農学アカデミーの各団体の理事会の支持声明を发出した経緯が説明された。 学術会議第 2 部の丹下副部長より学術会議の第 25 期の状況について説明された。</p> <p>6.日本農学賞受賞者および読売農学賞受賞候補者の決定 日本農学会農学奨励規程（日本農学賞授賞規程）に沿って行われた選考会において 7 名の日本農学賞受賞者が決定された。読売新聞社の編集局科学部長が立ち会いのもと、その場で読売農学賞受賞者も決定された。 以下受賞者（推薦学協会）：【五十音順】 高林純示（日本応用動物昆虫学会）、土佐幸雄（日本植物病理学会）、朴龍洙（日本農芸化学会）、福島和彦（日本木材学会）、星岳彦（農業情報学会）、Marcy Nicole Wilder（日本水産学会）、渡邊紹裕（農業農村工学会）</p>
理事会	第 27 回 1 月 27 日 WEB(Zoom)会議	<p>審議事項：</p> <p>第 1 号議案 2022 年度事業報告について 全員一致で承認された。</p> <p>第 2 号議案 2022 年度決算報告および監査報告について 全員一致で承認された。</p> <p>第 3 号議案 定款変更について（修正部分の検討） 全員一致で承認された。</p>

		<p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日本農学賞受賞候補者業績発表者について 2.総会・選考会進行・タイムテーブル・台本について 3.総会資料について 4.その他報告事項
	<p>第28回 3月13日 WEB(Zoom)会議</p>	<p>審議事項：</p> <p>第1号議案 第94回(2023年度)日本農学大会プログラムについて 今年度は弥生講堂で会場参加とオンライン配信のハイブリット開催することが全員一致で承認された。 また、4年振りに祝賀会も開催することが承認された。</p> <p>第2号議案 シンポジウム講演内容・講演者について タイトルは「激動する社会と農学」とし、園芸学会、日本育種学会、日本応用糖質科学会、日本水産学会、日本畜産学会、日本土壌肥料学会、日本農業気象学会、農業農村工学会から推薦の8名に講演してもらうことが全員一致で承認された。</p> <p>第3号議案 2024年総会、2023年度理事会、企画委員会、運営委員会の(9,12月)日程について 総会：2024年2月10日(土) 理事会、企画委員会、運営委員会：2023年9月5日(火)、2023年12月5日(火)に決定した。</p> <p>協議・報告事項：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常任委員の担当割・業務引継ぎ事項 2. その他
	<p>第29回 9月5日 WEB(Zoom)会議</p>	<p>審議事項：</p> <p>第1号議案 2024年度総会・日本農学賞選考会開催方法について 2024年2月10日(土)に対面で開催することが全員一致で承認された。</p> <p>第2号議案 (一社)日本技術者連盟からの依頼について(動画配信事業についての周知など) (一社)日本技術者連盟からの依頼の経緯、内容(メリット、デメリット)について説明があり、いくつかの懸念事項を先方に確認し、その回答を待って、加盟学協会へ紹介することが承認された。</p> <p>報告事項：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.第28回日本農学会理事会議事録について 2.シンポジウム準備状況 シンポジウム後の懇親会は開催する方向で準備することになった。 3.2024年度シンポジウムテーマについて 3件のテーマについてそれぞれ意見がだされた。日本土壌肥料学会より提出された「日本の農学の国際貢献ー現状と将来展望(仮題)」を軸にして、いくつかのキーワードをあげて加盟学協会へ話題提供を依頼することになった。

		<p>4.2024 年度日本農学賞推薦応募・総会について 昨年同様に日本農学賞受賞候補者の推薦を依頼することが報告された。総会については、対面で行うことが決定されたので運営委員会で報告する。</p> <p>5.2023 年度第 2 回日本農学会運営委員会の議題整理</p> <p>6.2023 年度第 2 回日本農学会企画委員会の議題整理</p>
	<p>第 30 回 12 月 5 日 WEB(Zoom)会議</p>	<p>審議事項：</p> <p>第 1 号議案 2024 年度事業計画（案）について 2024 年 4 月 5 日開催の日本農学大会、同 10 月 5 日のシンポジウム等が説明され、全員一致で承認された。また、日本農学大会は東京大学弥生講堂で開催することも承認された。</p> <p>第 2 号議案 2024 年度収支予算（案）について 通常通りに対面で各種催し、事業が開催されることを前提とした収支予算（案）が全員一致で承認された。</p> <p>第 3 号議案 2024 総会（日本農学賞選考会）議事 総会の議事が全員一致で承認された。また、総会および選考会は 4 年振りに対面で行うこと、会議後に懇親会を開催することが確認された。</p> <p>第 4 号議案 役員改選にともなう推薦依頼、選挙について 加盟学協会に推薦を依頼することが全員一致で承認された。また、総会には加盟学協会での投票権を持つ 1 名のみの出席とすることも全員一致で承認された。</p> <p>第 5 号議案 2024 年度、運営委員および常任委員について 運営委員 54 名、常任委員として現常任委員の 3 名（日本造園学会、日本畜産学会、日本農芸化学会）に加え、新たに日本農作業学会、日本繁殖生物学会、日本フードシステム学会から 3 名の就任が承認された。</p> <p>第 6 号議案 2024 年度シンポジウムのテーマおよび話題提供について 5 学協会から提案された話題について説明がなされた。例年より 3 題少ないため、不足分について、分野を絞って再募集することが承認された。</p> <p>協議事項・報告事項</p> <p>1.2023 年度事業報告・収支決算報告（案）について 2023 年度事業報告（案）の説明があった。2023 年度収支決算報告（案）の説明があった。</p> <p>2.第 95 回（2024 年度）日本農学大会について 2024 年 4 月 5 日（金）に東京大学弥生講堂で開催することで進めることになった。</p> <p>3.その他</p> <p>1)日本技術者連盟の依頼について 技術動画を介して技術・製品・知財の売り手と買い手を結びつけるビジネスマッチメイキングサイトの紹介について、日本農学会としてホームページに掲載し、運営委員会や総会において紹介する</p>

		<p>ことになった。</p> <p>2)2023 年度第 3 回日本農学会運営委員会の議題整理</p>
運営委員会	<p>第 1 回 3 月 13 日 WEB(Zoom)会議</p>	<p>1.今期常任委員の紹介があった。</p> <p>2.2023 年度第 6 回日本農学会総会の報告がされた。 2022 年度収支計算書について報告があった。</p> <p>3. 2023 年度(第 94 回) 日本農学大会準備状況 弥生講堂にて、コロナ禍前の通常形式で 10 時から開催、会場参加とオンライン配信のハイブリッド方式で開催することが報告された。</p> <p>4.2023 年度シンポジウムについて 2023 年度日本農学会シンポジウム「激動する社会と農学」の話題提供をお願いし、8 学協会から話題（講演者）の推薦があったことが報告された。</p> <p>5.2024 年度シンポジウムテーマ募集について今後テーマの募集をおこなうとの報告があった。</p> <p>6.その他 総会日程 2024 年度（第 7 回）総会 2024 年 2 月 10 日（土） 運営委員会 9 月 5 日（火）15：00～、12 月 5 日（火）15：00～とする。理事会、企画委員会は上記日程にあわせる。</p>
	<p>第 2 回 9 月 5 日 WEB(Zoom)会議</p>	<p>1.2023 年度第 1 回日本農学会運営委員会議事録が承認された。</p> <p>2.2023 年度（第 94 回）日本農学大会の報告 オンラインで配信のハイブリッドで開催。会場参加 100 名（関係者含む）、オンライン登録者：234 名、視聴者：187 名の参加があったことが報告された。</p> <p>3.2023 年度日本農学会シンポジウムの準備状況について 9 月 1 日現在オンライン参加申込者数 246 名。関係者、各学協会内で周知、参加のお願いがあった。</p> <p>4.2024 年度日本農学賞受賞候補者の推薦 および（一社）日本農学会総会について 推薦締切が 11 月 30 日（木）となる。また総会・選考会は 2024 年 2 月 10 日（土）に対面開催することが報告された。</p> <p>5.2024 年度シンポジウムテーマについて 加盟学協会から提出されたテーマ 3 件について、理事会で議論された要点の説明がなされ、土壌肥料学会から提案された「日本の農学の国際貢献—現状と将来展望(仮題)」をテーマにすることが報告された。今後、このテーマにそったキーワード等をお知らせし、改めて加盟学協会に話題提供を依頼することが説明された。</p> <p>6.2024 年度常任委員担当学会について 2024 年度の常任委員担当学協会が確認された。</p> <p>7.その他 1) 日本学術会議における「未来の学術振興構想」の進捗状況 9 月中に「学術の中長期研究戦略」を 19 のグランドビジョンに取</p>

		<p>りまとめた提言「未来の学術振興構想」が公表されると報告された。</p>
	<p>第3回12月5日 WEB(Zoom)会議</p>	<p>1.2023年度第2回日本農学会運営委員会議事録(案)が承認された 2.2023年度事業報告(案) 資料に基づき説明があった。 3.2023年度収支決算報告(案) 資料に基づき説明があった。 4.2024年度事業計画(案) 資料に基づき、日本農学大会、シンポジウム等の説明があった。 (1)シンポジウムテーマ・話題提供募集について タイトルは「激動する社会と農学」(仮題)とすることが理事会で決定され、今後、話題提供を加盟学協会へ依頼することになった旨報告があった。 5.2024年度収支予算計画(案) 資料に基づき説明があった。 6.2024年度社員総会および日本農学賞選考会について 2024年2月10日(土)に対面で開催することになった旨報告があった。 7.役員改選にともなう推薦依頼 資料に基づき、役員推薦の依頼をすることが説明された。 8.2024年度会員(学協会代表者)・運営委員・常任委員について 資料に基づき会員、運営委員、常任委員が報告された。 9.2024年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表順 抽選により以下のように推薦学会による発表順が決定された。 発表順(以下17件) 1.(一社)日本森林学会 2.日本生物環境工学会 3.(公社)農業農村工学会 4.(公社)日本農芸化学会 5.(一社)日本植物病理学会 6.日本農業気象学会 7.(一社)日本応用糖質科学会 8.(公社)日本繁殖生物学会/(公社)日本畜産学会 9.(一社)日本応用動物昆虫学会 10.(一社)日本育種学会 11.日本作物学会 12.(一社)農業食料工学会 13.(一社)植物化学調節学会 14.日本農薬学会 15.(公社)日本水産学会 16.(一社)日本土壌肥料科学会 17.(公社)日本獣医学会 10.その他 1)日本技術者連盟の依頼について 技術動画を介して技術・製品・知財の売り手と買い手を結びつけるビジネスマッチメイキングサイトの紹介 資料に基づき説明があった。また、All Japan 学協会連携 IC サークル活動コンソーシアム事業を日本農学会のホームページに掲載し紹介することが報告された。</p>

企画委員会	第1回 5月15日 WEB(Zoom)会議	<ol style="list-style-type: none"> 1.企画委員会立ち上げ 企画委員の自己紹介を行った。 2.講演タイトル・内容・講演者について テーマの方向性や講演内容、シンポジウムタイトル等について議論した。各講演者のタイトルについては再考をお願いすることになった。 3.発表順・プログラム案について 発表順について議論された。 4.今後のスケジュール 講演依頼、講演タイトル、ポスター等スケジュールに沿って進めることが承認された。 3.その他 総合討論の司会は大政副会長が行うことで検討することになった。
	第2回 9月5日 WEB(Zoom)会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2023年度シンポジウムに関わる全体スケジュール プログラム沿って説明があった。 2. 2023年度シンポジウム・タイムテーブル及び役割分担 タイムテーブルに沿って説明があった。 3. 広報活動 ポスターをDM便で発送、ホームページ掲載、現時点での参加登録数について説明があった。 4. 講演要旨の作成について シンポジウム3日前にホームページに掲載し、シンポジウム当日に削除する。冊子版も作成（印刷）し当日会場での販売をする。 5. その他 「農業および園芸」の原稿執筆依頼について説明があった。